

カボチャのペーパーポット苗親づる1本仕立て栽培に対応した施肥法

親づる1本仕立てでは、70日窒素溶出タイプの肥効調節型肥料を施用し2割削減することで慣行法と同等の収量が得られる

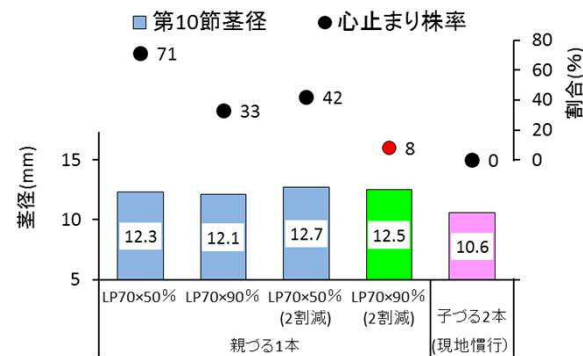
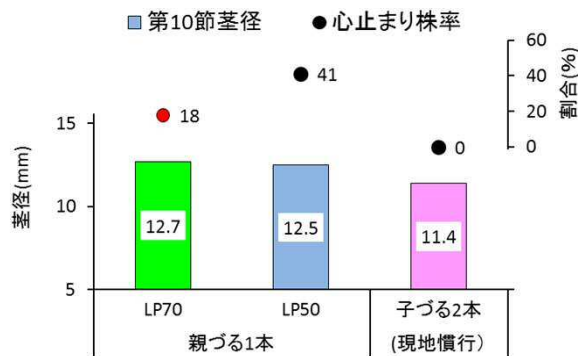
背景・目的

- ・カボチャの機械移植可能なペーパーポット苗を用いた親づる1本仕立て法は、初期生育が旺盛になり心止まりしやすいことが課題である
- ・そこで、肥効調節型肥料を用い、心止まりしにくく生産が安定する親づる1本仕立て法に対応した施肥技術を確認する

成果の内容

親づる1本仕立て法では、肥効調節型肥料のLP70を施用することでLP50に比べて心止まりが減少

肥効調節型肥料の配合割合を90%に高め、窒素施肥量を2割削減することで心止まりを抑制

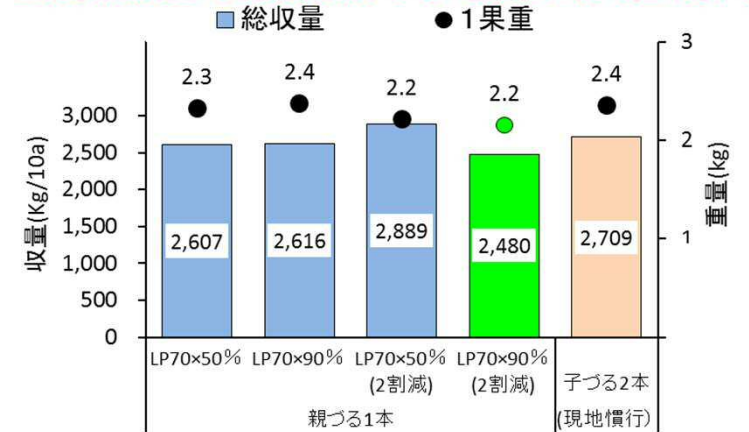


※施肥

- ・親づる1本仕立ては基肥のみで、10a当たりN:20kg, P₂O₅:20kg, K₂O:20kg
- ・親づる2本仕立てのN施肥量は基肥15kg(LP70 5割, 速効性5割), 追肥5kg
- ・全てに牛ふん堆肥2t/10a, 苦土石灰100kg/10a施用

導入メリット

窒素施肥量の2割削減でも1果重、総収量は同等



移植作業の省力化による栽培面積の拡大

期待される効果

- ・肥効調節型肥料の施用により心止まりの減少および生産の安定化

普及対象・範囲
早熟カボチャ栽培地帯